

探究・校務改革
支援補助金
2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

グローバルデザインスクール株式会社

【サービス名称】

アグリーツforSchool食の地域探究

【サービスの支援項目】

カテゴリー1 探究的な学びの高度化メインサービス

2026年1月



■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

「アグリーツforSchool食の地域探究」は、農業をリベラルアーツとして捉える独自の教育思想「アグリーツ」を基盤に、学校と地域を“学び”でつなぐ探究学習支援サービスである。地域の農業生産者や加工事業者が抱える実際の課題（フードロス削減、6次産業化、特産品の魅力発信等）を題材に、児童、生徒が情報収集・整理・分析を行い、地域の特産品のオリジナルパッケージやチラシ等の成果物を制作し、実際の流通や販売につなげる実践型PBL学習を提供する点が大きな特徴である。授業や学習指導要領における探究学習のプロセスに沿って設計されており、動画教材、ワークシート、フレームワーク等を活用しながら、生徒の主体的な学びを支援する。

「アグリーツforSchool食の地域探究」の導入によるメリットは以下の4つが挙げられる。

- 地域の農業・食といった実社会の題材を教材化することで、児童、生徒が主体的に問いを立てる探究学習を実現できる。
- 探究プロセス（課題設定～整理・分析～表現）を支える動画・ワークシート・教案が一体提供され、探究の質を安定的に高められる。
- 生産者調整や授業設計のひな型、要所での伴走支援により、教職員の準備・運営負担を軽減できる。
- 教科横断的に活用しやすく、総合的な学習（探究）の時間に継続的に導入可能である。

(2) 学習に関連する効果

「アグリーツforSchool食の地域探究」の導入により、生徒は以下の力を実践的に身につけることができる。

- 課題発見力・課題設定力
- 情報収集力・情報整理分析力
- 協働力・表現力
- 地域や社会と関わる当事者意識

また、「食と農」という身近かつ社会的意義の高いテーマを扱うことで、地域での学びを世界や地球規模の課題へと視野を広げるきっかけになる。

(3) サービスの活用場面

探究授業や横断的・総合的な学習の時間において、全10コマから12コマを標準授業として活用する。

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

1人あたり5,500円(税込)

※50名未満の場合は一律682,000円(税込)

※授業設計、教材一式(動画・ワークシート・フレームワーク・地域の特産品)、生産者マッチング、地域連携調整、ファシリテーション支援、ラベルシール等制作を含む

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

「アグリアーツforSchool食の地域探究」では、授業設計から実施、地域連携、事後の振り返りまでを一体的に支援するサポート体制を構築している。

	授業実施前	授業実施中	授業実施後
学校・教職員向けサポート	事前打ち合わせ・授業設計支援・成果物の完成イメージ共有・教材活用説明・生産者のマッチングと特産品の選定	食の地域探究一部授業でのファシリテーション・講師アレンジ(生産者、加工事業者等)・地域連携調整・成果物の制作進行と入稿対応	アンケート実施・振り返りの共有と次年度提案
児童・生徒向けサポート	探究テーマ提示・ゴールの共有	動画教材・ワークショップやフレームワークの活用・中間と最終フィードバック	学びの振り返り

【オプションサービス】サービスサポート220,000円

生徒向けガイダンス実施・教職員向け事前研修(事前研修と授業実施期間中の問い合わせ伴走支援)

■ 学校等教育機関の課題と解決策

探究学習の重要性が高まる一方で、学校現場では授業設計や地域連携、成果物制作等に関する教職員の負担が大きく、探究学習を継続的・効果的に実施することが難しい状況にある。「アグリアーツforSchool食の地域探究」は、探究学習の授業設計から地域連携、事務局業務までを一体的にサポートすることで、探究学習の質の向上と校務負担軽減の両立を実現する。

児童生徒・教職員が抱える課題

課題①探究学習の授業設計・準備負担の大きさ

探究プロセスに沿ったテーマ設定、教材準備、評価設計などに多くの時間と労力を要しており、教職員の負担が大きい。

課題②地域連携・外部調整に関する校務負担

地域生産者や外部関係者とのマッチング、日程調整、打ち合わせ対応などが教職員の業務として発生し、探究学習実施のハードルとなっている。

課題③探究学習の質の担保の難しさ

探究学習に取り組む中で、「調べ学習」と「発表」に学習が収束してしまう傾向があるという課題が見られる。本来は外部との関わりや実体験を伴う探究へのニーズがあるものの、学校外のネットワークが十分でないことから、オープンデータやアンケートの実施に止まらざるを得ないケースが多い。その結果、生徒が実社会の課題や当事者の声に直接触れる機会が限られ、体験を伴う探究や試行錯誤を通じた深い学びにつながりにくいという現状がある。教職員からは「探究を“実践”にまで落とし込むことの難しさ」を課題としてあげる声がかかれた。

サービスが果たす役割

改善策①授業設計・教材提供による準備負担の軽減

学習指導要領に準拠した授業設計に加え、動画教材、ワークシート、フレームワーク等を一式で提供することで、教職員の授業準備負担を軽減する。

改善策②地域連携・事務局業務の代替

生産者マッチングや地域連携調整、成果物制作・入稿等の事務局業務を弊社が担うことで、教職員は授業内での生徒支援に専念できる環境を整えることができる。

改善策③実社会と接続した探究学習の実現

地域の生産者や事業者等が直面する実際の課題を題材とし、当事者との対話や成果物の制作・活用までを含む学習設計を行うことで、調べ学習や発表にとどまらない実体験を伴う探究学習を実現する。

弊社が学校と地域をつなぐ中間支援を担うことで、教職員の新たなネットワークを1から構築することなく、実践的な探究学習に取り組むことが可能になる。

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

本事業では、「アグリアーツforSchool食の地域探究」を総合的な探究の時間に導入し、全10～12コマの探究学習として実施した。授業の初期段階（オリエンテーション）では、地域の農業生産者が登壇し（一部はオンライン登壇）、実際の地域課題（耕作放棄地の利活用、特産品を活用した地域活性、販売の工夫や魅力発信等）を題材に課題意識を醸成した。課題設定・情報収集の段階では、配布されたワークシートやフレームワークを活用し、児童・生徒が個人及びグループで調査内容や問いを整理した。情報整理・分析の段階では、動画視聴による情報整理・分析の視点を学び、Xチャート等のフレームワーク教材を用い、収集した情報を比較・分類・分析しながら、パッケージデザインのターゲット、コンセプトやメッセージを検討した。中間発表では、作成途中の企画書やデザイン案をタブレット画面で提示し、外部有識者やファシリテーターからのフィードバックを受けて、改善を行った。最終段階では、完成した企画書・パッケージデザイン案をグループごとに発表し、実際の販売や地域への発信を想定したまとめを行った。これら一連のプロセスにおいて、動画教材、ワークシート、授業進行資料を一体的に活用することで、探究の各プロセスを段階的に協働的に進めることができた。

授業フェーズ	授業の主な内容	サービス活用内容（ツール・教材）	活用場面
課題理解・課題設定	地域の特産品・生産者の課題を知り、探究テーマを設定	生産者の話（講義またはインタビュー動画） 課題整理ワークシート	個人・グループで記入
情報収集・整理・分析	市場調査・類似商品調査を行い、情報を整理・分析	動画教材 情報整理フレームワーク（Xチャート等） ワークシート	PC・タブレットで動画視聴 PC・タブレット、ワークシートを活用した調査・整理活動
企画制作・発表	パッケージ等のデザイン・企画案を制作し発表	企画書テンプレート ふりかえりシート	PC・タブレット画面共有による発表とフィードバック



情報収集・整理分析:PC・タブレットでの動画視聴、ワークシートの活用

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	3	学校等教育機関数	3校
--------	---	----------	----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	和泉市教育委員会	和泉市立槇尾学園	大阪府	その他	7年	総合的な探究の時間・槇尾学
2	学校法人安田学園	安田女子中学校	広島県	中学校	1年	総合的な探究の時間
3	学校法人桐蔭学園	桐蔭学園中等教育学校	神奈川県	その他	中等1年～4年	みらとびアフタースクール

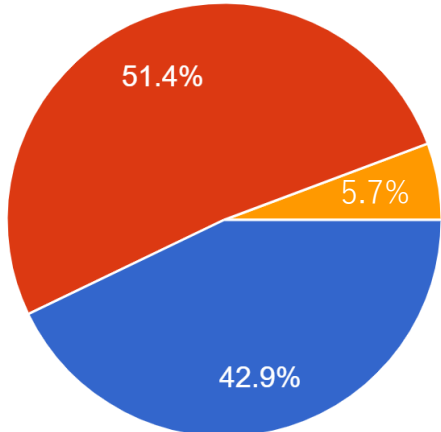
■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

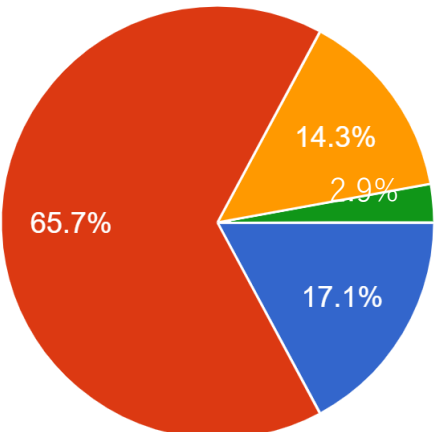
生徒へのアンケート結果(回答数:35)

- とてもそう思う
- どちらともいえない
- 全くそう思わない
- そう思う
- あまりそう思わない

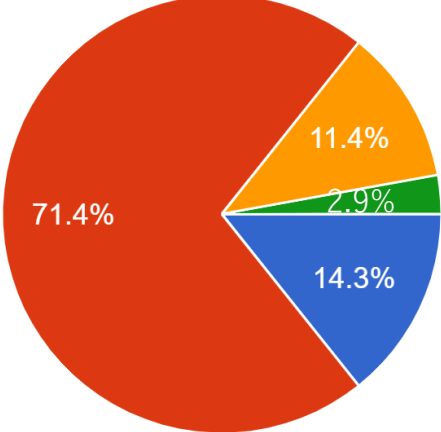
Q1 探究学習に取り組む意欲が高まったと思う



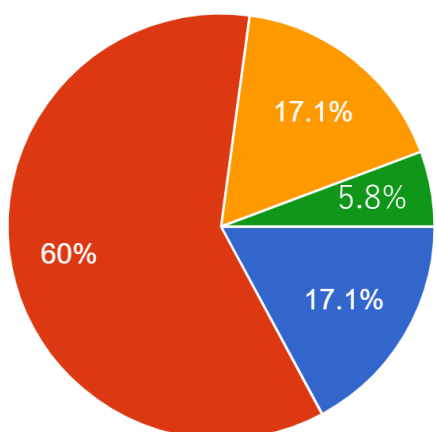
Q2 自分で課題(問い)を見つける力がついたと思う



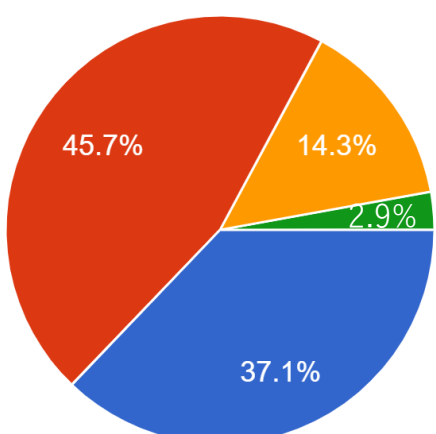
Q3 情報を集めたり整理したりする力がついたと思う



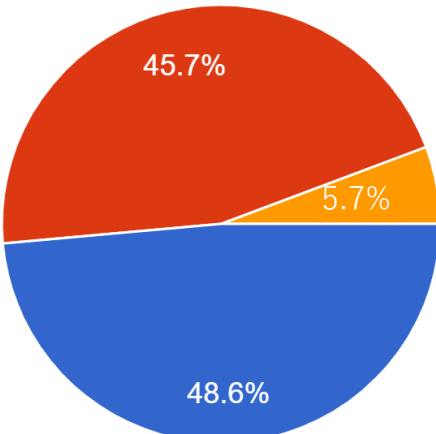
Q4 意見をまとめて表現する力がついたと思う



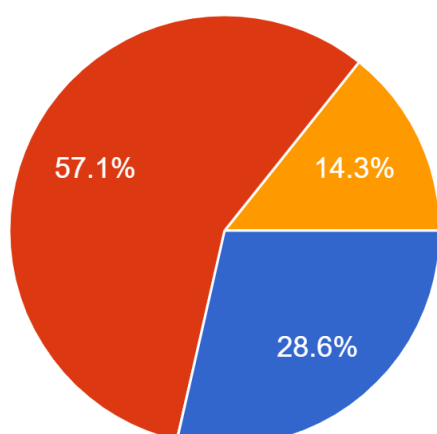
Q5 地域の特産品や生産者の思いを知ることは楽しかった



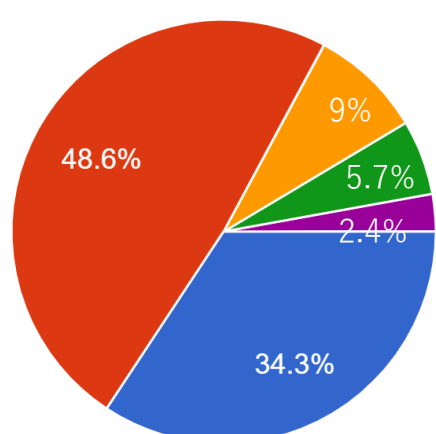
Q6 パッケージデザインづくりは学びになった



Q7 最終発表でのフィードバックは役に立った



Q8 今回の探究をまたやってみたいと思う

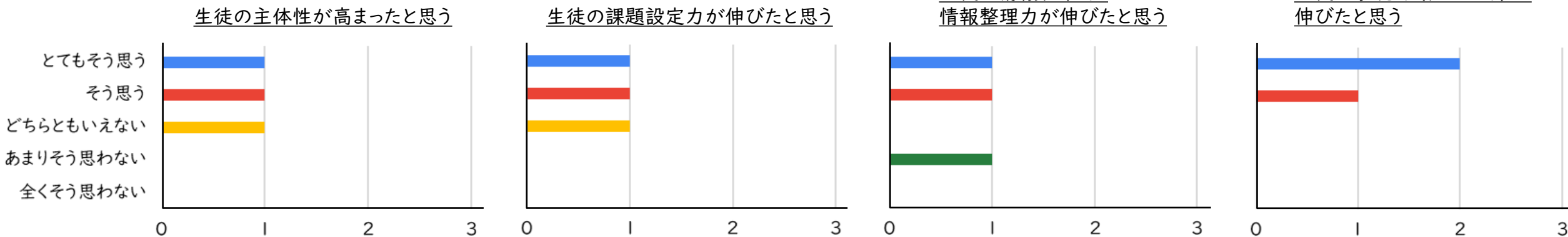


<考察>
 従来の探究学習では、調べ学習や発表に留まり、実社会と接続した体験が不足しているという課題があった。本サービス導入後、生徒に探究学習への意欲について質問したところ、9割以上が意欲の向上を実感していると回答した。また、「課題設定力」「情報収集・整理力」については8割以上、「表現力」についても7割以上の生徒が伸びを実感している。地域の特産品や生産者を題材とした実践的な学習設計により、探究への関心と主体性が高まり、実体験を伴う学びを通じて探究に必要な基礎的能力が育成されたと考えられる。さらに、地域や他者との関わりを通じて、社会と自分との関係性を意識する契機となったことが示唆された。

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

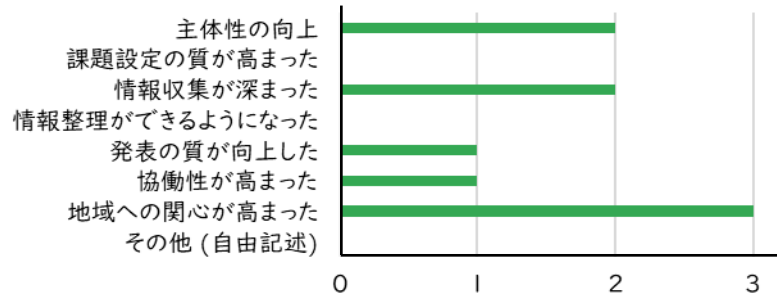
定量的効果検証

教職員へのアンケート結果(回答数:3)※グラフ横軸は回答者数



定性的効果検証

今回の探究で見られた生徒の変化をすべて選んでください(複数回答可)



生徒の具体的な成長エピソードがあれば教えてください

- ・今回のラベルデザインを通して、教室では学べないことを学んでいる。振り返りの段階で、作成時には実感を得ることのできなかった、商品の先には「相手(お客さん)」がいることを学んでいた。
- ・ラベルデザイン案のプレゼンでは見たことのない生徒の姿が見られました。生徒にとっても良い経験になったと思います。

<考察>

探究学習について、生徒が実社会の課題や当事者の声に直接触れる機会が限られ、体験を伴う探究や試行錯誤を通じた深い学びにつながりにくいという課題があった。実際の地域課題を題材に、地域の方々と触れ合いながら成果物を作成・活用していく本サービスを実施した結果、教員への「今回の探究で見られた生徒の変化」という質問に対して、3名の回答者全員が「地域への関心が高まった」と回答した。また「主体性の向上」「情報収集力の深まり」といった変化があったと回答した方も2名いた。生徒の具体的な成長エピソードを質問したところ、「作成時には実感を得ることができなかった相手(お客さん)がいることを学んでいた」「プレゼンでは見たことのない生徒の姿が見られた」との回答があった。これらの結果から、生徒たちは実社会の課題を題材に地域の方と触れ合い、地域の中で活動する体験を通して、自分自身と社会とのつながりを感じ、主体的に取り組むことができたといえる。また主体的に取り組めたからこそ、これまでの探究学習以上に「伝える」という点に関しても学習を深められたことがわかった。

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

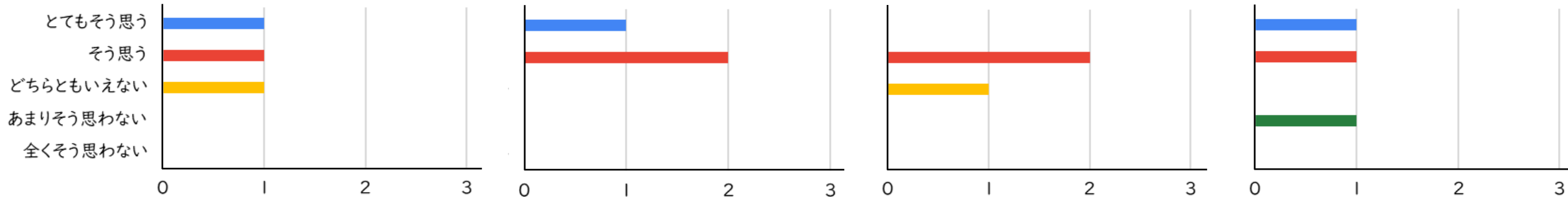
教職員へのアンケート結果(回答数:3)※グラフ横軸は回答者数

授業準備の負担が軽減したと思う

動画教材・ワークシート・
フレームワークは役に立った

最終発表でのフィードバックは
効果的だった

業務効率化(授業準備/会議/評価
等)に効果があったと思う



定性的効果検証

時間削減効果があればご記入ください。

- ・約週1時間分
- ・週3時間分削減

改善点やご要望があれば教えてください

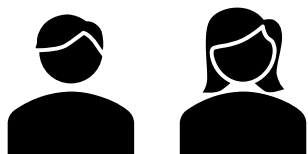
- ・ラベルを瓶に貼る際に、どうしてもしわなどができてしまっとうまく貼れないことがあったので、瓶にきれいに貼れるように工夫できればと思いました。

継続導入に向けて必要な支援があれば教えてください

- ・今年度はすごく生徒に寄り添ってもらっていました。ありがとうございました。
- ・みかんジュースの製造段階で生徒が携われたら嬉しいです。

<考察>

これまで、探究学習については外部との関わりや実体験を伴う探究へのニーズがあるものの、学校外のネットワークの不十分さに加えて授業設計や学校外関係者との調整業務など教員の負担が大きくなるのが探究学習実施の課題となっていた。今回、弊社が授業設計に加え、動画教材、ワークシート、フレームワーク等を一式で提供し学校と地域の調整役を担うことで探究学習を実施した。3名の教員に時間削減効果について質問したところ、無回答を含め「～週3時間程度」の削減効果があったとの回答が得られた。また、3名全員から「動画教材・ワークシート・フレームワークは役に立った」との回答が得られ、2名からは「授業準備の負担が軽減した」「業務効率化に効果があった」との回答が得られた。改善点や要望および継続導入に向けた必要な支援を質問した結果、「製造段階で生徒が関われば嬉しい」「ラベルのシール貼りの工夫」など学習プログラムの内容や詳細に関する要望はあったが、支援自体の要望に関しては特に回答が無かった。これらの結果と前頁の学習効果に関する結果から、今回の支援や学習内容に関して概ね満足いただけたといえる。また業務の軽減も実感いただくことができた。



生徒たちのコメント

- ・8年生になったときにおんなじようなことをする時、自分でもっと探究したい。
- ・今回学んでみて、今後は自分で案を立ち上げてみたい。
- ・今回やったことは自分たちで考える力に活かせると思う。
- ・今回の学びを美術に活かしたい。
- ・よく売れるための工夫を今後活かしたい。
- ・今回学んでみて、自主的に学習したいと思う。
- ・ラベルの作り方やみかんに対しての思いを聞いたから、次何かを販売する時に思いを込めるようにしたい。
- ・人に興味を持ってもらえるようなもの考えることにつなげたい。
- ・今回の学びを人を笑顔にする事に活かしたい。
- ・友達や地域の人々との関わり方やコラボできる方法が身につきました。
- ・今回やってみて、色々な人と関わるようにしたいと感じた。
- ・今回のことでできなかったこと、出来たことを出し合ってまた、このような機会があればこの学びを活かしてより良くしたい。
- ・相手の気持ちを考えるということを生かしていきたい。



先生のコメント

ぜひとも継続してできると嬉しいです。
みかんジュースに付加価値をつけていくともっと魅力的な商品になるのではないかと思います。例えば、みかんジュースを飲むとQRコードがでてくる。そのコードを読み取れば、有益な情報が得られる。みたいなものもおもしろいかと思います。

■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

「アグリアーツforSchool食の地域探究」の導入・運用にあたっては、地域生産者の選定や関係者のスケジュール調整といった、地域連携特有の課題が生じた。一方で、JA等の地域組織との連携や、オンライン・事前収録動画を活用した運用により、課題への対応と学習効果の両立が可能であることが明らかとなった。今後は、これらの知見を踏まえ、より柔軟で再現性の高い運用モデルへと改善を図っていく。

直面した課題

課題①地域生産者・加工食品選定の難しさ

学校から「可能な限り市内の生産者・農作物を活用したい」という要望があったが、都市部においては、生産から加工まで一貫して行っている生産者を見つけることが難しく、マッチングに時間を要した。広島市の事例では、結果的に市内および県内の生産者・農作物を活用した加工品を選定する形となった。

課題②地域生産者等の関係者のスケジュール調整の難しさ

授業時間やアフタースクールの実施時間があらかじめ決まっている中で、かつ学校側のスケジュール変更もあり、生産者を含む関係者全体のスケジュール調整が難しく、対面での課題共有・課題提示が実施できず、オンラインでの参加や生産者インタビューを事前に録画した動画教材を活用することで対応した。

解決するための改善策

改善策①JA等の地域の生産者を束ねる組織との連携

今後は、JA等の地域の生産者を束ねる組織とも連携し、地域内の生産者情報や加工体制に関する情報を事前に整理・共有することで、学校のニーズにより合致した生産者マッチングを行う体制を構築する。

改善策②対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の課題提示の標準化

生産者インタビューを事前に録画した動画教材を活用することは、結果として、畑の様子を含めた映像を共有でき、生徒にとってはオンライン圃場見学に近い体験となった。また、生産者側にとっても自分の都合にあわせて時短参加できることから、参加ハードルが下がり、動画を期間中何度も視聴できる点も学習効果の向上につながった。今後は、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の課題提示・共有方法を標準化し、状況に応じた柔軟な運用を行う。

■会社概要

社名	グローバルデザインスクール株式会社
代表	新井千広
設立年月	2018年7月
本社	静岡県牧之原市布引原1076-2
資本金等	2,030万円、資本準備金1,390万円
売上高等	3,000万円
従業員数	7人
事業内容	<p><u>ジュニアビレッジ事業</u></p> <ul style="list-style-type: none">・「アグリアーツ」に基づいた教材企画・開発・田畑と地域を学び舎に「考え、行動し、つくる」を学ぶ探究スクール「ジュニアビレッジ」企画運営 <p><u>地域活性事業</u></p> <ul style="list-style-type: none">・農山村活性につながる中間支援・特産品の企画開発・EC販売・農山村をフィールドにした企業向け各種研修

■お問い合わせ窓口

担当：大竹/村田

電話：0548-88-9945

Mail：support@global-ds.co.jp